

研究開発提案募集FAQ

【未来社会創造事業】

分類	質問	回答
制度説明	「主たる共同研究者」や「研究開発参加者」として、本事業への複数の研究提案に参画できますか。	「主たる共同研究者」や「研究開発参加者」として、本事業への複数の研究提案に参画することは可能です。 ただし、研究内容や規模等を勘案した上で、運営統括の判断により、研究開発費の減額や、当該研究者が参画する研究開発課題のうち一部の課題の参画を認めない等の調整を行うことがあります。
制度説明	大学が企業と共同で開発した機器を購入することは可能でしょうか。	ご質問のような委託研究費の支出可否については、事務処理説明書に則って委託先機関が判断します。事務処理説明書をご参照の上、ご所属機関にお問い合わせください。 (事務処理説明書： https://www.jst.go.jp/contract/index2.html)
制度説明	e-Radの研究者番号・研究機関コードがない人は、主たる共同研究者として参加できますか。	e-Radの研究者番号・研究機関コードがない方については、「研究開発代表者」や「主たる共同研究者」として参加することはできません。e-Radによる応募方法等については募集要項P.71をご覧ください。 なお、e-Radの研究者番号・研究機関コードがない方でも「研究開発代表者」「主たる共同研究者」以外の「研究開発参加者」としての参加は可能です。
制度説明	令和2年度に未来社会創造事業で研究開発課題を実施している研究開発代表者は、今回の公募における提案で主たる共同研究者として参画できますか。	「主たる共同研究者」や「研究開発参加者」として、本事業への複数の研究提案に参画することは可能です。
制度説明	ステージゲート評価の時期は提案者が設定できるのでしょうか。	研究開発提案書に探索研究と本格研究の研究期間を記入いただくことで、ステージゲート評価の時期を提案することができます。 実際のステージゲートの実施は、研究開発の内容や進捗、科学技術醸成の変化等により、運営統括が変更することがあります。
制度説明	本事業の採択率はどれくらいでしょうか。	本事業のホームページにて過去の採択実績（応募数、採択数など）を掲載しておりますので、下記リンクをご参照下さい。 (https://www.jst.go.jp/mirai/jp/open-call/research/index.html)
制度説明	研究開発代表者としてJSTの他事業との重複応募は可能でしょうか。	他事業が重複申請を制限していなければ申請可能です。ただし、他事業に採択された場合には速やかに本事業の事務担当に報告してください。この報告に漏れがあった場合、本事業において、採択の決定の取消し等を行う可能性があります。
制度説明	今回の公募において、複数の重点公募テーマに研究開発代表者として応募することはできますか。	複数の重点公募テーマに同時に研究開発代表者として応募することはできません。 ただし本事業では、選考過程において横断的に重点公募テーマ間で選考に関する調整を行い、応募した重点公募テーマとは異なるテーマで選考・採択を行う場合があります。詳細は募集要項15ページをご覧ください。
超スマート	AIが判定する基盤となるであろう、ヒトの行動様式や行動変容に関する大規模な調査研究は本テーマの対象に含まれますか。	当該調査研究の手法に技術的な先進性があり、大きな社会インパクトをもたらす可能性があるなど、本事業の趣旨に合致する内容であれば本テーマの対象に含まれます。
超スマート	「異分野」の意味は、人文社会科学に限らず様々な分野の融合研究と捉えてよいですか。	「異分野」は人文社会科学に限定してはございません。様々な分野の知見を融合して、社会課題解決に向けた内容の提案をお願いいたします。
超スマート	人文・社会科学(情報科学)の方と連携したいと考えていますが、まだ見つけられておりません。提案段階では構想を提示し、探索研究(あるいは本格研究)中に参画していただくこともよいですか。	探索研究期間中に異分野融合の研究体制を構築することを提案内容に含めることは可能です。ただし、全体の研究構想を実現する上で、必要な技術(人文・社会科学を含む)とそのために必要な研究体制を明確に示してください。
超スマート	ハードウェアやデバイス分野の研究開発は募集対象に含まれますか。	含まれます。しかし、バックキャスト的に10年後の社会課題を見据えた上で、そのために必要な技術を明確に示してください。また、従来技術の延長ではなく、技術的な先進性のある研究提案を期待しています。
持続可能【モノの寿命】	本格研究を目指す応募は観察手法・計測手法に特化した研究は対象外だが要素技術タイプであれば応募可能か？複合材料一般に適用できるのが必要でしょうか？	応募可能です。ただし計測対象の複合材料は、炭素繊維強化プラスチック(CFRP)とセラミック複合材料(CMC)を対象に、疲労・劣化の素過程にミクロな構造変化を計測可能な技術を募集しております。汎用性の高い計測技術を期待します。
持続可能【モノの寿命】	複合材について、汎用なモデル開発を中心とした提案も可能でしょうか。	余寿命推定確立のための汎用なモデル開発を中心とした提案も可能ですが、モデル構築の際には、疲労・破壊現象を学理に立ち戻って解明したものがベースになっていることが必須です。

分類	質問	回答
持続可能 【モノの寿命】	複合材についてマルチスケールという観点は必須でしょうか。	疲労・破壊現象解明のためには、ミクロからマクロまでマルチスケールという観点は必須です。
持続可能 【モノの寿命】	複合材の余寿命測定技術ということですが、新規の複合材自体の開発は本テーマに含まれますでしょうか。	複合材自体の開発に限らず、余寿命推定技術の確立が本格研究の目標です。疲労・破壊現象の素過程からの理解と現象の解明による余寿命推定の技術の確立をベースにした開発の提案が必要です。
持続可能 【モノの寿命】	革新的な発想による複合材とは具体的にどのようなものなのでしょうか？	従来の発想とは異なる、母材と強化材の新しい組み合わせによる複合材料を対象とします。その余寿命を高精度に推定する技術確立に関する一連の研究提案を重点的に求めます。
持続可能 【モノの寿命】	疲労や劣化、破損・破壊に至る機構の解明は学理に立ち返った研究でないと採択されにくいでしょうか？	機構の解明を元にした、汎用的な余寿命推定の技術確立を目的としているので、学理に立ち返って機構を解明することで初めて、メカニズムを一般化できると考えていますので、学理に立ち返った研究が強く望まれます。
持続可能 【モノの寿命】	複合材の計測も重要な課題と考えますが、計測に重点を置いた提案は可能でしょうか。	本格研究の目標は余寿命推定の確立なので、計測技術だけでは本格研究には進めませんが、今年度は要素技術タイプを募集しているのでそちらに応募可能です。
持続可能 【新品種導出】	対象とする生物種は何でしょうか。また、新品種は、工業材料や食料の生産につながる品種のみが対象になるのでしょうか。	今年度は、主に植物・微生物・昆虫を対象にした工業材料・食料生産に向けた新品種の導出技術を募集します。特に重点的な対象は定めていません。本テーマは「持続可能な社会の実現」領域のもとで設定されており、社会的・産業的ニーズが高いものの、現状では生物機能を利用した生産ができていない工業材料や食料の生産を目指した品種を重視しています。
持続可能 【新品種導出】	導出した新品種そのものを工業材料や食料とする場合と、新品種を物質生産の場として用いて、それらが生産する物質を工業材料や食料とする場合とが考えられるますが、両者とも対象になるのでしょうか。	両者とも対象とします。新品種は、社会的・産業的ニーズが高い工業材料・食料の供給を可能とし、実現した際のインパクトが大きいものが望まれます。
持続可能 【新品種導出】	汎用的な技術の確立を提案する場合、どれか1つの生物種を対象として適用すればよいのでしょうか。	汎用的な技術の確立を行う場合、代表的な生物種に適用し、技術の実用性を実証してください。ただし、生物種の選定にあたっては、社会実装を視野に入れてください。
持続可能 【新品種導出】	新品種導出に関する新たな技術開発が求められているのでしょうか。あるいは、既存技術の改良も対象になるのでしょうか。また、作出される遺伝子の特性が革新的であれば、既存技術を用いた新品種導出でも対象となるのでしょうか。	新規技術の開発を求めます。既存技術を改良する場合、既存技術に対して明確な優位性が認められ、効率的な新品種導出につながる技術開発であれば、対象とします。既存技術の単なる適用拡大は対象外とします。 なお、新品種の効率的な導出につながるのであれば、遺伝子・ゲノムの改変に限定せず、幅広い技術の提案が可能です。例えば、目的とする有用形質を有する新品種を効率的に選別する技術なども対象となります。
持続可能 【新品種導出】	探索研究ではどこまでの成果が求められるのでしょうか。具体的な新品種の導出を探索研究の2年半で実施することが求められているのでしょうか。	本研究では、技術の確立と新品種導出による技術有効性の実証をお願いします。そのために、探索研究2年半とそれに続く本格研究5年間の終了時までに具体的な新品種の導出が求められます。例えば、植物の場合、本格研究終了時までに圃場試験などによる実環境での試験結果を示してください。探索研究では、本格研究に進んだ際に、期限内に目標達成が可能であることを示してください。
持続可能 【新品種導出】	社会実装は日本国内のみを想定しているのでしょうか。SDGsは地球全体が対象なので、海外における社会実装を目指した提案も応募可能でしょうか。また、社会実装において海外企業との連携は可能でしょうか。	基本的には日本国内における社会実装を想定していますが、海外への展開は可能です。また、海外企業との連携も可能です。そのような場合、相手国の規制や実情、知的財産の管理体制などを踏まえた提案をお願いします。
持続可能 【新品種導出】	本テーマでは倫理や社会受容などELSIへの対応を重視していますが、具体的な活動内容を提案書の計画に含める必要があるでしょうか。また、探索研究ではどこまで対応することが求められるのでしょうか。	本格研究終了時には社会実装が可能な状態であることが求められます。その際に、ELSIに関わるボトルネック課題については、解決に向けた取り組みがステークホルダー間で推進され、解決の目途がついていることが重要です。この点を踏まえ、提案書には工業材料・食料の生産や市場に出た際に想定されるELSIに関わる課題を明記し、その解決に向けた活動について説明してください。さらに、探索研究期間中に解決に向けた適切な体制を構築し、本格研究で課題を解決する道筋を示してください。これらELSIに関わる課題については、探索研究期間中に調査・検証を実施することも可能です。なお、JSTとしても、本テーマを推進する中でELSIに取り組み、支援を行う予定です。
持続可能 【新品種導出】	動物に関連する新品種導出を対象とした応募は可能でしょうか。	今回は主に植物・微生物・昆虫を対象にした工業材料・食料生産に向けた新品種導出技術を募集するので、その範囲内であれば応募可能です。
安全安心 共通	要素技術タイプの提案は受け付けるのでしょうか。	本年度は、本領域では要素技術タイプの募集を行っていません。

分類	質問	回答
安全安心 共通	主に本格研究から関わる企業は、探索研究の段階から参加することが望ましいでしょうか。	企業が参画される場合は、探索研究の段階から参加、または本格研究の段階から参加のどちらでも構いません。
安全安心 共通	出口について、スポーツやエンターテインメントなどを想定した提案も対象となりますか。	スポーツやエンターテインメントを出口とする提案も可能です。
安全安心 【心理状態】	学校や職場等の日常生活とありますが、対象となるのは若年層や中年層のみでしょうか。	若年層から中年層、高齢層まですべての年齢層が対象であり、限定しません。目的や内容に応じた対象を自由にご提案ください。
安全安心 【心理状態】	どのような心理状態を対象とするかは特に指定はないという理解でよいでしょうか。また、対象が個人かグループかも自由に提案できるという理解でよいでしょうか。	対象とする心理状態に指定はありません。また、個人かグループかも自由にご提案ください。
安全安心 【心理状態】	学校や職場などの日常生活への実装とありますが、日常として想定されるシーンであれば、学校や職場以外の実装を想定した提案も可能でしょうか。	日常生活には、学校や職場だけでなく、一例として家庭やデイケア、農場、商店など様々な場が想定されますので、自由にご提案ください。
安全安心 【心理状態】	探索研究期間の2.5年ほどでフィードバック手法の有効性までを検証する研究計画でなければならないのですか。	本格研究を含めた研究期間で有効なフィードバック手法の確立を目指した研究計画を立案してください。
安全安心 【心理状態】	提案に、心理状態をセンシングするデバイス開発を含めることは可能でしょうか。	可能です。または、既存のデバイスを活用する提案でも構いません。
安全安心 【心理状態】	人文・社会科学系の研究者が中心の体制で提案も可能でしょうか。	可能です。人文・社会科学系の研究者がリーダーで共同研究者に自然科学系の研究者が参画、またはその逆でも構いません。
安全安心 【心理状態】	数理学分野の専門家の参加も期待されていると思われそうですが、探索研究においては資金的な制約もあるので、本格研究以降の参加を記載して提案することでもよいでしょうか。	本格研究へと進んだ段階で、必要な分野の研究者を体制に加えるという構想の提案も可能です。
安全安心 【心理状態】	心理状態は把握するところまでで、介入の方法までは求められていないという理解でしょうか。	把握した心理状態に基づいて、効果的なフィードバック手法の確立まで行うことが求められます。
安全安心 【セルフマネジメント】	食・運動・睡眠以外の日常行動を対象とした提案も可能でしょうか。また、今回の募集では食と運動が中心とのことですが、睡眠を中心とした提案も可能でしょうか。	食・運動・睡眠以外の日常行動を対象とした提案、睡眠を中心とした提案も可能です。
安全安心 【セルフマネジメント】	テーマの説明のなかで、客観的指標（マーカー）とありましたが、その測定方法に関しては特に指定はないという理解でよいでしょうか。	日常的な測定が可能であれば、客観的指標（マーカー）の測定方法に指定はありません。
安全安心 【セルフマネジメント】	作用機序説明が必須となっていますが、動物を用いたようなかなり基礎的な研究なども提案内容に含めることが可能でしょうか。	動物実験を含めることは可能です。その場合も、研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（平成18年文部科学省告示第71号）に基づく対応等を適切に行ってください。その他関係法令や機関における取り決め等があれば順守をお願いします。
安全安心 【セルフマネジメント】	未病の方のみが対象で、患者さんは対象外ということでしょうか。	健康～未病初期の方までを対象とします。患者さんの診断や治療を目的とした研究開発は対象外となります。
安全安心 【セルフマネジメント】	未病を含む「病気」が対象である場合、その解決には医師の参画が必須と考えた方がよいでしょうか。	健康～未病初期の方までを対象とします。病気の診断や治療を目的とした研究開発は対象外となります。医師の参画が必須ではありませんが、解決に必要な体制をご提案ください。
安全安心 【セルフマネジメント】	作用機序説明に関して、生理、生化学的、分子生物学的など、色々なレベルがあると思いますが、どのあたりを想定しているのでしょうか。	日常行動が、健康維持にどのようなメカニズムで効果を与えているかの解明を目指しますので、生体の恒常性維持に関わる生理、生化学的、分子生物学的な解析等が含まれると想定しています。

分類	質問	回答
安全安心 【セルフマネジメント】	作用機序解明は必ずしも動物実験ではなくてもよろしいでしょうか。	動物実験以外の方法による作用機序解明でも構いません。
安全安心 【セルフマネジメント】	「食」または「運動」だけの提案は可能でしょうか。	「食」または「運動」のみの提案も可能です。
安全安心 【セルフマネジメント】	「食」または「運動」だけの提案よりも、「食」と「運動」の両方を含んだ提案が望ましいでしょうか。	必ずしも「食」と「運動」の両方を含むことを評価するわけではありません。ハインバクトな目標設定がされているか等の観点から評価をします。
低炭素	統括による説明資料のスライド3に記載のある、「2050年頃の低炭素社会実現にどれほど寄与するかが定量的に示されていること」について、具体的な説明をお願いします。	その技術が社会実装された場合、現在の技術と比べて二酸化炭素排出量がどの程度削減できるか具体的に示すことです。例えば、ある化成品をバイオ技術で生産する技術の場合、現行の化学合成方法と比較して、どの程度消費エネルギーを低減し、二酸化炭素排出量が減少するか示すことです。厳密な算出は困難ですので、可能な範囲での見積もりで構いません。
低炭素	大幅な二酸化炭素削減を実現するものであれば、従来技術の改良に関する提案も可能でしょうか。	本領域では、ゲームチェンジングテクノロジーにより2050年の低炭素社会を実現することを目指しております。従来技術の改良でも大幅な二酸化炭素削減に貢献するものがあると考えておりますが、ここでは新しい技術開発の観点を求めています。
低炭素	異分野シーズ融合運用で採択された研究開発チームは、単独で本格研究に進むことは可能でしょうか。	研究開発の進展によっては単独で本格研究に進む可能性もゼロではありませんが、現状では融合することが前提となっております。
共通基盤	装置開発は海外の企業と組むことを前提とした提案でも良いでしょうか。	「共通基盤」領域では、「基盤技術の事業化により日本の産業競争力を強化すること」を目標の1つとして掲げて研究開発を実施していることを踏まえ、海外企業との連携に係る契約・知財に関わる取り決めを十分に認識の上、御検討ください。
共通基盤	AIや機械学習は対象外でしょうか。	サブテーマ9(ST09)の数理にも含まれるものとして対象となります。
共通基盤	時価総額を目標としているが起業を前提にしているのでしょうか、提案・探索研究段階から企業やベンチャーの参画をどの程度重視されるのでしょうか。	前提ではありませんが起業への展開は歓迎、初めから企業やベンチャーが入っていることは必須ではありませんが社会実装を目指す過程で検討頂きたいと考えております。
共通基盤	「優先的に提案を求める課題Y01」はライフサイエンスを主に想定しておりエネルギー分野は対象外でしょうか、また「優先的に提案を求める課題Y02」の対象は有機材料に限定されるのでしょうか。	共にY01、Y02の趣旨に則るものであれば、対象となります。
共通基盤	他の研究ファンドで得られた基盤技術を用いた提案は対象となるでしょうか。（「先端計測分析技術・機器開発プログラム」で試作機を開発した成果を元に新たなPOCを設定した提案は対象となるでしょうか。	「共通基盤」領域の趣旨に即した研究開発提案であれば対象となります。
共通基盤	「要素技術タイプ」提案について、サブテーマ9(ST09)の数理である以外の制限はないでしょうか、本タイプで採択された課題が「通常タイプ」に移行する可能性はあるでしょうか、応募段階で具体的な本格研究の合流先を想定する必要があるでしょうか。	数理である以外の制限はなく、「通常タイプ」に移行するスキームは存在し、応募段階で合流先を想定する必要はありません。
共通基盤	現状でプロトタイプ程度は出来ている必要があるでしょうか。	応募段階では必要ではありません。
共通基盤	目標設定として、プログラム市販・製品化が必須要件で学術的成果のみで良いとの判断はあり得るでしょうか。	「共通基盤」領域の趣旨に即した研究開発提案であれば対象となりますが、学術的成果のみで領域の目標が達成できるかを御検討ください。
共通基盤	医療を出口に見据えた研究の場合、AMEDにおいて実施される研究に近くなることが想定されるが、技術としての斬新性があれば対象となるでしょうか。	「共通基盤」領域の趣旨に即した研究開発提案であれば対象となります。